

2023年2月期 第3四半期決算発表補足資料

イオンディライト株式会社

2023年1月12日

1 2022年度 第3四半期決算報告

2 2022年度 第4四半期の取り組み

連結損益計算書（第3四半期累計）

前年同期比で増収減益。期初業績予想に対して遅れが発生も 第3四半期は回復基調（次項）

新型コロナウイルス感染症やロシア・ウクライナ危機による営業利益への影響額は▲8.6億円

（億円）

	2021年度 第3四半期累計（構成比）		2022年度 第3四半期累計（構成比）		増減額	増減率	2019年度 同期比
売上高 [旧収益認識基準]	2,152 [2,407]	(100.0%)	2,268 [2,530]	(100.0%)	115 [123]	105.4% [105.1%]	110.3% [108.8%]
売上総利益	298	(13.9%)	302	(13.4%)	4	101.5%	104.4%
販売管理費	179	(8.4%)	194	(8.6%)	14	108.3%	115.2%
営業利益	118	(5.5%)	108	(4.8%)	▲10	91.3%	89.4%
経常利益	119	(5.5%)	110	(4.9%)	▲9	92.1%	90.3%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	84	(3.9%)	71	(3.2%)	▲13	84.3%	97.2%

※ 増減額・増減率・2019年度同期比は、前年同期・2019年度同期の実績を新収益認識基準で組み替えし、同基準で比較したものを掲載。大括弧内は、旧収益認識基準での同基準比較

※（構成比）は新収益認識基準で算出

連結損益計算書（第3四半期）

新規受託物件の増加や各種工事の受注拡大等により、**前年同期比123.1%の営業増益**

	2021年度 第3四半期（構成比）		2022年度 第3四半期（構成比）		増減額	増減率	2019年度 同期比
売上高 [旧収益認識基準]	686 [768]	(100.0%)	791 [877]	(100.0%)	104 [108]	115.3% [114.2%]	118.8% [116.7%]
売上総利益	93	(13.6%)	106	(13.5%)	13	114.0%	115.5%
販売管理費	59	(8.7%)	64	(8.2%)	5	108.8%	112.7%
営業利益	34	(5.0%)	42	(5.3%)	7	123.1%	120.1%
経常利益	34	(5.0%)	43	(5.6%)	9	127.3%	124.5%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	29	(4.3%)	28	(3.6%)	▲1	96.2%	129.2%

※ 増減額・増減率・2019年度同期比は、前年同期・2019年度同期の実績を新収益認識基準で組み替えし、同基準で比較したものを掲載。大括弧内は、旧収益認識基準での同基準比較

※（構成比）は新収益認識基準で算出

セグメント売上高

顧客内シェア拡大、新規顧客開拓により**全7事業で増収**

	2021年度 第3四半期累計	2022年度 第3四半期累計	増減率	2019年度 同期比 (億円)
設備管理 [旧収益認識基準]	464 [464]	490 [487]	105.4% [104.9%]	110.7% [110.1%]
警備	354	369	104.2%	110.8%
清掃	504	511	101.3%	109.9%
建設施工	336	382	113.4%	119.3%
資材関連 [旧収益認識基準]	301 [427]	309 [442]	102.8% [103.5%]	114.6% [114.8%]
自動販売機 [旧収益認識基準]	69 [197]	70 [202]	101.9% [102.4%]	85.4% [85.3%]
サポート	120	135	111.7%	95.0%
合計 [旧収益認識基準]	2,152 [2,407]	2,268 [2,530]	105.4% [105.1%]	110.3% [108.8%]

セグメント利益

3事業で増益、4事業で減益

警備：安全カメラの受注減、清掃：アルコール消毒清掃の受注減や新規物件受託に伴う先行投資、
建設施工：小修繕工事の受注減、資材関連：仕入原価の上昇、が主因

	2021年度 第3 四半期累計	2022年度 第3 四半期累計	増減率	2019年度 同期比	(億円)
設備管理	40.3	42.6	105.7%	105.7%	
警備	25.9	23.0	88.9%	104.5%	
清掃	61.7	50.3	81.6%	95.2%	
建設施工	28.6	27.1	94.9%	95.4%	
資材関連	19.3	14.5	75.3%	74.8%	
自動販売機	4.1	7.9	191.0%	83.4%	
サポート	3.3	4.1	126.9%	95.0%	
合計	183.4	169.9	92.6%	95.9%	

連結貸借対照表

(億円)

資産の部	2022/2	2022/11	増減額	負債・純資産の部	2022/2	2022/11	増減額
流動資産	1,210	1,281	71	流動負債	438	483	44
有形固定資産	70	71	0	固定負債	35	32	▲2
無形固定資産	56	64	7	負債合計	474	516	42
投資等	91	84	▲6	株主資本	929	941	11
固定資産	218	220	1	純資産合計	954	985	30
資産合計	1,428	1,501	73	負債・純資産合計	1,428	1,501	73

営業体制の強化と共にエネルギーマネジメントなど お客さまの課題を起点とした提案活動でマーケットシェアを拡大

取り組み	内容
営業体制の強化	<ul style="list-style-type: none">・顧客内シェアを拡大を企図し、アカウント営業を強化・各支社／支店による地域営業を強化
エネルギーコスト上昇への対応	<ul style="list-style-type: none">・照明のLED化や空調機の更新、ノンフロンケースの販売などを通じて、施設の省エネ化を推進・施設毎のより高度なエネルギーマネジメントを企図し、使用電力可視化ツールを38施設へと導入

持続可能な事業モデル構築に向けて 新たな施設管理モデル「エリア管理」の展開を加速



- 遠隔監視機能を備えたカスタマーサポートセンター
全国8支社配下に設置

2022年4月の機構改革にて
国内全8支社配下の支店エリア体制を再編
お客さまのニーズや施設/地域特性を踏まえた
エリアを設計し

全国で「エリア管理」の実施体制を整備

同時に、カメラやセンサーの導入による
点検業務の自動化やカスタマーサポートセンター
への業務集約を進め

91 施設で省人化（累計269施設）

新たな収益機会の獲得に向けて

41 名の専門人材を再配置（累計156名）

国内グループ会社全体で増収減益
 厳しい環境下で増収を果たすも原価上昇への対応に苦戦

社名	概況
イオンコンパス	<ul style="list-style-type: none"> 回復傾向にある出張需要や増加傾向にあるイベントのリアル開催などに着実に対応し業績を大幅回復
ADコネクト	<ul style="list-style-type: none"> ビルメンテナンス系子会社は、経営環境変化に伴うお客さまの設備投資計画の見送り/先送り、新型コロナウイルス感染症やウクライナ情勢などに伴う資機材の不足/調達遅延等、厳しい経営環境が続く中、一部増収を果たすも、原価上昇への対応に苦戦
白青舎	
環境整備	

2022年度 第3四半期の主な取り組み ③グループ経営-2 (アジアでの事業拡大)

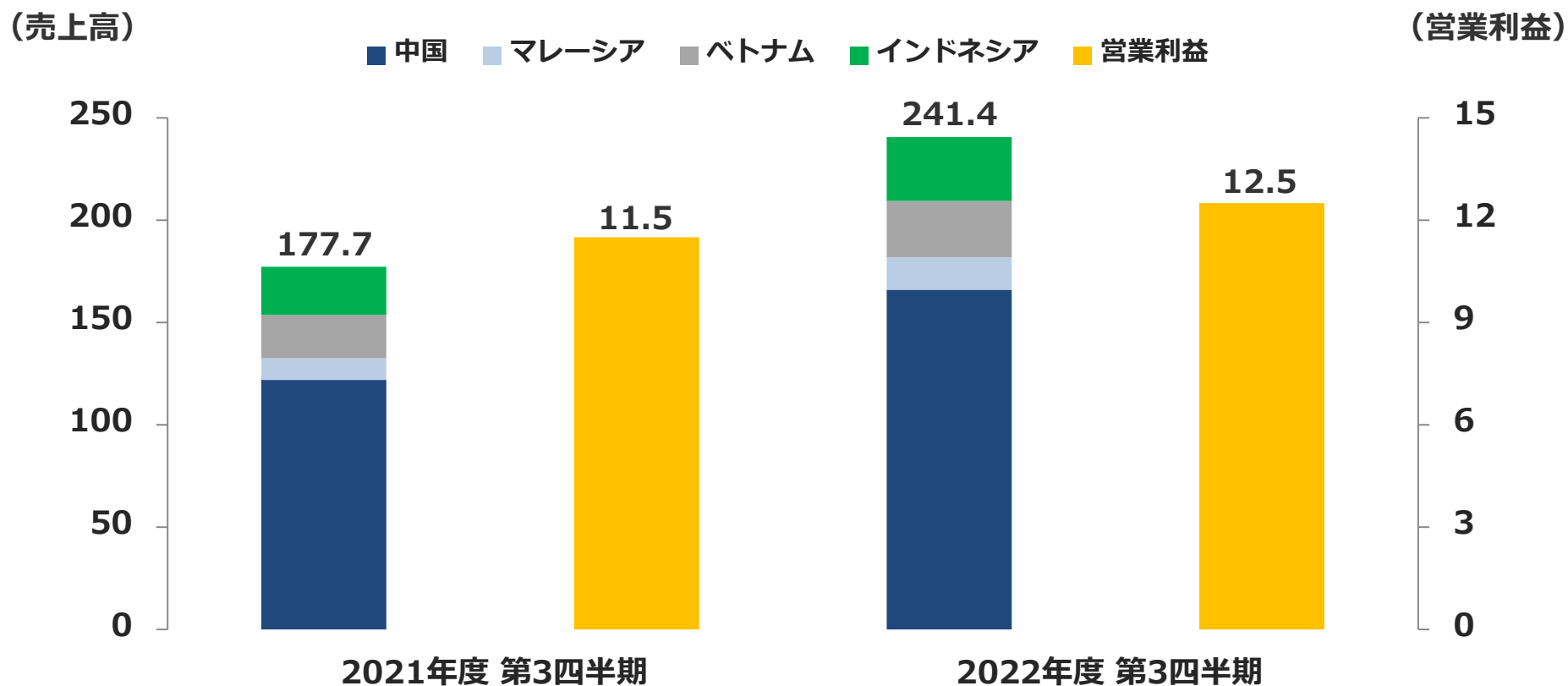
中国事業・アセアン事業共に**増収増益**

中国：M&A効果もあり顧客内シェア拡大や新規顧客開拓を推進

アセアン：各国経済が回復基調に転じたことで進出各国で大幅増収

海外事業は売上高 前年同期比135.9%、営業利益 前年同期比108.6%※

海外事業売上高／営業利益推移 (億円)



※ 数値は事業会社の単純合算ベース

パートナー企業各社と共に施設管理の専門家集団へ 「第4回イオンディライト技術コンテスト」を開催

【各コンテストの様相】



(写真左から) 「設備の部」 「清掃の部」 「警備の部」

国内外グループ各社やパートナー企業各社（清掃・警備）のメンバーらが互いの技術や取り組み成果、好事例を競技、披露し合いました。

技術力×人間力 = 専門性

自己株式の取得に加えて重要なステークホルダーである
従業員への株式付与を決定

- 2022年10月5日から2023年10月4日に150万株を上限に自己株式を取得
(2022年12月末日現在 349,300株取得済み)

+

- 創立50周年記念として、従業員持株会を通じた従業員への株式付与を決定
- 従業員持株会会員（2023年2月末日時点）に当社株式30株を付与

▶ 経営への参画意識、今後の業績へのコミットメント、ロイヤリティの向上を図る

1 2022年度 第3四半期決算報告

2 2022年度 第4四半期の取り組み

販管費の計画比1割削減に加え、各種施策の遂行により 営業利益の積み上げを図る

項目	主な取り組み
売上高の拡大	<ul style="list-style-type: none">・ 照明のLED化や空調機の更新、ノンフロンケースの販売など 省エネ提案のさらなる強化・ 施設の「安全・安心」「美観」の維持に向け<u>小規模修繕の提案</u>を強化
収益性の改善	<ul style="list-style-type: none">・ 設備管理事業：エリア管理の展開に伴い常駐設備管理員の省人化を推進・ 警備事業：入退店管理や閉店業務のシステム化により省力化を推進・ 資材関連事業：物流費の効率化に加え、上昇する原価の適正な売価への反映努力を継続

2022年度の業績予想

(億円)	2021年度実績 (構成比)		2022年度予想 (構成比)		増減率
売上高	新収益認識基準 2,839 (100.0%)		新収益認識基準 3,100 (100.0%)		109.2%
	旧収益認識基準 3,176 (100.0%)		旧収益認識基準 3,470 (100.0%)		109.3%
営業利益	157	(5.0%)	170	(5.5%)	108.3%
経常利益	157	(4.9%)	170	(5.5%)	109.0%
親会社株主に帰属 する当期純利益	106	(3.4%)	107	(3.4%)	100.0%

※ (構成比) は2021年度は旧収益認識基準、2022年度は新収益認識基準で計算

※ 新型コロナウイルスによる2022年度 営業利益への影響見込み▲8億円(2021年度▲12億円)として試算
(ロシア・ウクライナ危機による影響は含まず)

中期経営計画 KPI（重要業績評価指標）進捗

基本方針	KPI（2023年度末）	2022年度 第3四半期累計	2021年度期末
お客さま 起点の経営	売上高イオングループ内外比率 60%：40%（総額表示）	64.0%：36.0%	64.4%：35.6%
DXの推進	営業利益率6.0%、営業利益率向上を 通じたROE12%水準（通期）の維持	営業利益率4.8% ROE -%※	営業利益率5.0% ROE 11.7%
	エリア管理導入施設数360施設（累計）	269施設	178施設
	エリア管理による 常駐ポスト削減数180名（累計）	156名	115名
	機能集約による本社スタッフ20%の 直接部門への再配置	—※	本社部門の業務プロセス 改善に着手
グループ 経営	国内グループ会社 通期売上高650億円	—※	521億円
	海外売上高比率8.0%超	10.6%	7.8%
	国内グループ財務経理部門の シェアードサービス化（通期）	—※	国内グループ全社を対象 に当社財務経理部門から のサポートを開始

青字表記は改善項目

※ 一部指標に関しては通期で更新

ご意見・ご質問につきましては、下記にお願いいたします。

- この資料には、イオンディライトの将来についての計画や戦略、業績に関する予想及び見通しの記述が含まれています。
これらの記述は、過去の事実だけではなく、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定に基づく見込みです。そのため、実際の業績は見込みとは異なる可能性がありますので、ご承知置きください。
- 資料中、特に注記がない場合を除き下記の方法により記載しております。
 - ◇ 全て連結を対象として記載
 - ◇ 記載金額は億円未満を切り捨て
※p.6, 11 のみ千万円未満を切り捨て
 - ◇ 比率は小数点第2位を四捨五入

イオンディライト株式会社
(証券コード：9787)

IR担当部署：社長室 広報・IRグループ
TEL 03-6895-3892
又は、ホームページよりお問い合わせください。
<https://www.aeondelight.co.jp>

本資料の内容につきましては公表日（2023年1月12日）までに入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後の様々な要因により業績予測につきましては、変更する場合がございます。